



上越総合病院 地域連携センター便り

2017
11月号

清秋の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また平素より当院に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年も10月7日（土）に病院祭を開催し、例年以上の約600人の方にご来院いただきました。今年は「明日の笑顔を担う上越総合病院～ひろげよう地域の輪～」をテーマとして掲げました。ご来院いただいた皆様には様々なイベントを通して、地域の皆様に笑顔になっていただきたいとの職員一同の熱い想いを感じていただけたのではないかと自負しております。また、皆様の笑顔に職員も勇気づけられていること、感謝申し上げます。

上越地域においても医療を取り巻く環境は刻々と変化し、厳しさを増しております。急速な少子高齢化、将来の人口構造の変化に対応する地域医療構想の策定とそれに伴う病床再編、診療報酬のマイナス改定など、良い材料が一つも見当たらないというのが正直なところであります。

このような逆風ともいえる状況ではありますが、地域連携の様々なやり取りを通して関連施設の皆様から、毎年の病院祭で地域の皆様から、そして何より毎日の診療の中で患者様から、笑顔になっていただけるような病院を目指して、また職員自身も笑顔になれるように、できることはなんでもやってゆきたいと考えております。

「移転新築十年、上越総合病院ネクストステージ」が今年の病院祭のテーマでした。“ネクストステージ”の全貌については今年4月の地域連携センター便りで病院長がその覚悟とともにお伝えしているところですが、院内では“ネクストステージ”に向けての協議が徐々に形になりつつあります。地域連携センターの強化もその協議の中で重点項目とされており、まだまだ十分とは言い難いとは存じますが、皆様のご要望にできる限りお応えできるよう体制整備をより一層すすめてゆきたいと考えております。

上越地域の澄み切った秋空のように、皆様のお気持ちが爽快でありますようご自愛いただき、上越総合病院の次なるステージにご期待いただくとともに、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

事務長 渡邊 孝



医療機関様からのご紹介・お問い合わせは

上越総合病院 地域連携センター

電話 025-524-3000（代表）

FAX 025-524-3140（直通）まで

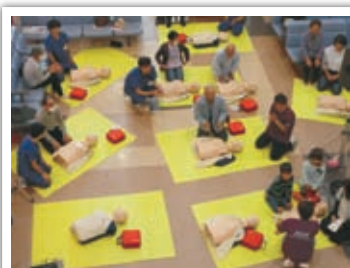
病院祭

2017年10月7日

明日の笑顔を担う上越総合病院～ひろげよう地域の輪～をテーマに掲げ開催いたしました



病院長挨拶



ICLSチームと臨床研修医によるAEDの使い方指導



クラシックコンサート
[M.I.D JAPAN Inc]



オープニング



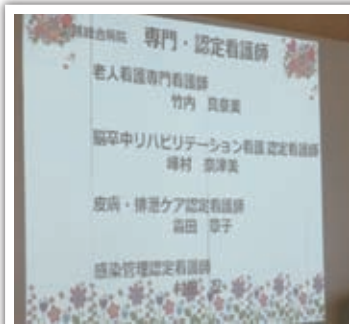
保倉川太鼓



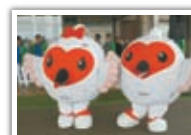
老健アルカディア職員によるよさこい踊り



こどもわいわい広場



上越総合病院
専門・認定看護師による
リレー講演



今年も
トッキキが
来ました

地域の皆様より多くのご参加をいただきまして、ありがとうございました。

これからも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

整形外科からのお知らせ

平成29年4月より整形外科の外来診療は完全予約制となっております。

ご予約の際は〈紹介患者事前申込書〉にご記入の上、地域連携センターまでご送信下さい。

「終末期医療の倫理の基礎」と「DNRの倫理」について

東京大学大学院医学系研究医療倫理学分野 客員研究員 箕岡 真子 先生の講演会が開催されました



ゆく秋の感慨も深くなる時期、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また日頃より、当院に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回の地域連携センター便りでは、当院での終末期医療に関する取り組みについて紹介いたします。

終末期医療はこれまで、主に進行癌でなかなか治療が難しい場合の概念として議論されてきました。この言葉そのものには新鮮味はないかもしれませんが、最近、高齢者の終末期においては複雑な問題を含んでおり、注目されています。

昨今の医療水準の向上により多くの病態の死亡率が低下し、我が国は世界屈指の高齢化社会を迎えました。とはいえ、我々は不老不死を手にしたわけではありません。結果、嚥下機能低下に伴う誤嚥性肺炎や、膀胱機能低下に伴う尿路感染症を生じて入院する高齢者が増加しています。

高齢者が入院する際、自分の人生の終末期にどうありたいかを考える能力が低下（→認知機能の低下）していることをしばしば経験します。その結果、真に本人の望む終末期の医療が提供できているのか、我々は頭を悩ますことが多いのです。

この一環として、POLSTワーキンググループが設立されました。POLSTとは、Physician Orders for Life Sustaining Treatmentの略です。人生の終末期にどうありたいかをあらかじめ記しておくことがリビングウィルとすれば、どのような医療を受けたいかをあらかじめ定めておくため、医師と相談し、その事前指示書を作成することがPOLSTです。例えば、自身での呼吸が難しくなった際の人工呼吸器装着や、循環停止時の心臓マッサージが思いつきやすいものですが、腎不全時の血液浄化療法や嚥下機能低下時における経鼻胃管や胃瘻による栄養療法、もっと細かく言えば、血圧低下時の昇圧剤も含まれます。

概念自体はそれほど難しくはなさそうですが、事を難しくしているのは、「どの時点で意思決定をするか」です。「癌」と違い、「老化」は疾病ではありませんし、ある程度歳がいった方でも、自分も周囲も、まだまだ何とか生きて行けると思われていることが多いものです。このため、いざという時のことはお茶の間の話題にはなりにくいのです。しかしそんな中、前面には出ないものの認知機能低下がひそかに進行している方は、急な入院を機に一気に生活機能低下が顕性化してきます。その時点でいざという時のことを話しても、十分に理解していただける方は多くないのです。

終末期に際しての具体的な個々の治療法を行う・行わないに対する事前意思がPOLSTであるのに対し、いざ自分が回復不可能な状況になった際、普段の会話や作成しておいた書面から、家族や医療従事者の方がその方の終末期に対する価値観を汲み取り、その方に即した治療・ケアを提供することをAdvanced Care Planning (ACP)といいます。「自分にもしものことがあったら管を突っ込んだり苦しいことはしないでコロッと逝かせてくれ」という以前の言葉をもとに、その息子が、「父親はこんなことを言っていたので人工呼吸器の装着は結構です」といった具合です。

我々は倫理面に配慮しつつ議論を進め、この地域にPOLST/ACPの概念を拡げてゆきたい所存です。

総合診療科 部長 大堀 高志

内 科	呼 吸 器	外 山 讓 二	外 科	乳 腺 外 来	藤 田 亘 浩
	呼 吸 器	月 岡 啓 輔			伊 達 和 俊
	呼 吸 器	竹 内 寛 之			小 出 則 彦
	消 化 器	佐 藤 知 巳			藤 田 加 奈 子
	消 化 器	合 志 聡			平 島 浩 太 郎
	消 化 器	鈴 木 庸 弘	呼 吸 器 外 科		尾 嶋 紀 洋
	消 化 器	禿 晃 仁	脳 神 経 外 科		江 塚 勇
	消 化 器	佐 藤 毅 昂			荒 川 泰 明
	腎・糖 尿 病	亀 田 茂 美		非常勤医師	亀 山 茂 樹
	腎・糖 尿 病	米 沢 正 貴	産 婦 人 科		相 田 浩
内 科 (非常勤医師)	腎・糖 尿 病	上 野 光 博			小 幡 宏 昭
	糖 尿 病 内 分 泌	笹 岡 利 安			廣 井 威
	糖 尿 病 内 分 泌	岡 部 圭 介			奈 良 本 葉 月
	血 液	野 村 憲 一	耳 鼻 咽 喉 科	非常勤医師	高 倉 大 匡
	和 漢	藤 本 誠		非常勤医師	阿 部 秀 晴
	和 漢	野 上 達 也	眼 科		佐 藤 昭 一
	呼 吸 器	清 水 夏 恵			阿 部 慎 也
総 合 診 療 科		大 堀 高 志		非常勤医師	平 島 み ほ
		麻 生 祐 嗣		非常勤医師	東 條 直 貴
		今 西 明		非常勤医師	三 原 美 晴
		近 藤 優 美		非常勤医師	宮 腰 晃 央
循 環 器 内 科		箆 島 充	整 形 外 科		渡 部 公 正
		長 谷 川 智 也			相 場 知 宏
		中 澤 峻			片 岡 大 往
		西 脇 湊		非常勤医師	東 條 猛
神 経 内 科		福 原 信 義		非常勤医師	金 森 昌 彦
		鈴 木 隆		非常勤医師	元 村 拓
	非常勤医師	春 日 健 作	泌 尿 器 科		里 見 定 信
	非常勤医師	徳 武 孝 允			安 川 瞳
	非常勤医師	小 松 潤 史		非常勤医師	渡 部 明 彦
	非常勤医師	畠 山 公 大	救 急 科		丸 山 正 則
	非常勤医師	赤 木 明 生	麻 酔 科		朝 日 丈 尚
小 児 科		土 谷 修 一			加 藤 晋
		田 中 真 奈			加 藤 麻 紀 子
	非常勤医師	雅 楽 川 隆	放 射 線 科		加 藤 洋
皮 膚 科		竹 上 與 志 昌	病 理 診 断 科		関 谷 政 雄
歯 科 口 腔 外 科		桑 原 徹	検 査 科		巻 渕 隆 夫

早朝検査の実施について（予約患者様のみ）

当院では、外来患者様の待ち時間を短縮する取り組みとして、検査の受付時刻を従来の8時30分より30分早めて行っております。それにより患者様にはスムーズに診察を受けて頂けると考えております。